

超音波工業会のあゆみ

創立50周年記念

2015

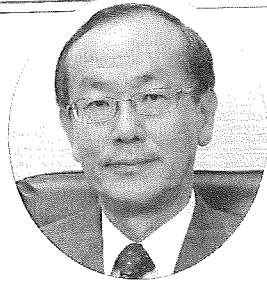
(平成27年)

超音波工業会

超音波工業会50年のあゆみ

目次

| | | | |
|------------------------|----------------------|--------|---------|
| ご挨拶 | 超音波工業会 会長 | 中村 哲 | ……2 |
| 創立50周年にあたり | 超音波工業会 副会長 | 松岸 則彰 | ……3 |
| 創立50周年への祝辞 | 経済産業省情報政策局情報通信機器課 課長 | 三浦 章豪 | ……4 |
| | 日本産業洗浄協議会 会長 | 目黒 弘 | ……5 |
| | 東京工業大学 教授 | 中村 健太郎 | ……6 |
| | 日本工業大学 教授 | 神 雅彦 | ……7 |
| 空中超音波技術の新たなる世界をめざして | 日本大学 教授 | 伊藤 洋一 | ……8 |
| 超音波の出会いと今後の期待をこめて | (株)デンソー 阿久比製作所 担当課長 | 塩月 定 | ……9 |
| 日本製造業の歩みに思いをよせて | 超音波工業会 前会長 | 及川 哲夫 | ……10 |
| 技術委員会の活躍JISC6790 制定～改正 | 超音波工業会 技術委員長 | 高橋 典久 | ……11 |
| | 超音波工業会会員プロフィール | | ……11 |
| | 超音波工業会 年表 | | ……11 |
| | 歴史年表 | | ……11 |
| | 編集後記・編集委員の皆様より「一言」 | | ……11 |
| | 記念写真 | | ……12・13 |
| | 超音波工業会会員プロフィール | | ……14～17 |
| | 超音波工業会 年表 | | ……18～25 |
| | 編集後記 | | ……26 |



ご挨拶

超音波工業会 会長 中村 哲
超音波工業(株) 代表取締役 社長

超音波工業会が前身の超音波協議会として産声を上げてから50年を迎えようとしています。このたび、この節目の記念事業の一端として「超音波工業会の歩み-創立50周年記念」を発行することとなりましたので一言ご挨拶申し上げます。

2次大戦終了後の超音波応用技術の研究の黎明期には魚群探知器などの「通信的応用」が先行されたようですが、超音波洗浄機や超音波プラスチックウエルダなどの「動力的応用」は知名度がまだまだ低かったと聞いております。

超音波工業会はわが国唯一の強力超音波応用機器の工業会として50年の間、国内で超音波応用技術の普及活動を続けてまいりました。その結果、超音波応用機器は「省エネルギー」で「環境にやさしい」すぐれた技術として半導体、自動車、電気機器、医療、食品など枚挙にいとまがないほど応用範囲が広がっております。縁の下の力持ちではありますが日本国内はもとより世界の工業界にもなくてはならない不可欠な技術となっております。誠に同慶の至りに存じます。

また昨今、安倍政権の景気浮揚政策や日銀の大幅な金融緩和により為替が円安へと推移し、円高下のデフレ不況から抜け出す兆しが見えてまいりました。リーマンショック以降円高が進んだために多くの国内製造業が東南アジアをはじめとする海外へ移転しましたが、前述したアベノミクス効果などにより今度は為替が安定した円安基調となり、転出していた製造業が国内回帰しております。緩やかではありますが国内景気が持ち直してきているようです。会員各社の皆様をはじめ、超音波技術に携わる多くの皆様が更なる飛躍をして発展をする良い機会であるとおおいに期待いたしております。

私も今まで同様に、工業会と関係官公庁や大学の皆様との良好な関係を保ち、会員各社の皆様の親睦がさらに深まりますように、また超音波応用機器の付加価値が高まり海外勢との競争力が大きくなるよう会員各社の皆様が切磋琢磨して行くことのできる環境づくりに全力を注ぐ所存でございます。

最後になりますが、当工業会が今日ありますのも、ひとえに工業会の成長を温かく見守り、発展にご尽力いただいた先輩諸氏にお力によるものでございます。改めて敬意を表します。また長きに亘りご指導、ご助力いただきました関係官庁、諸団体および大学、研究機関の皆様にも厚くお礼申し上げます。超音波応用技術は、今後とも世の中にはなくてはならない必須技術として存在し続け、発展することは疑う余地はありません。皆様からの当工業会への一層のご指導とご鞭撻を重ねてお願いいたします。

創立50周年にあたり

超音波工業会 副会長 松岸 則彰
精電舎電子工業(株) 代表取締役社長

超音波工業会が、このたび創立50周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。この日を迎えることが出来たことは、ひとえに会員の皆様方をはじめ、半世紀前に工業会を設立された諸先輩方ならびに、事務局の皆様方の並々ならぬご尽力の成果の賜物であると深く敬意を表します。

さて、50年来のお付き合いをさせていただいております者の一人といたしまして、設立時には多くの企業が参加し、超音波を応用した新技術、新製品で新市場を開拓し、その技術製品を世界に紹介する大きな夢を実現させるために、当工業会を設立したと確信しております。

その後半世紀が経ち、超音波応用技術は大きく発展しました。装置も高出力、高周波数、小型化が可能となり、更に高精度化する事で加工技術、生産性も大きく改善し、広範囲に使用されています。

今日に至るまでの間、超音波業界も順風満帆とはいかず、会員数も減少し設立当初の勢いが失われつつあります。しかし、設立当初の夢と期待を持ち続ければ、現時点で効果は確認されているが実用化には時間が掛かる新技術も、今後開発が進み、その多くが実用化されることと思います。いずれ、不可能を可能にする技術として超音波が採用され、更なる発展につながる時代が必ず来ると確信をしております。これからの半世紀も超音波応用技術が益々発展し、日本の成長に貢献できる事が期待されております。

日本の景気もようやく回復基調にあるようです。日頃の活動でも景気が良くなった実感があり、希望が持てる状況になりつつあります。超音波工業会会員の皆様の高い技術力を活用し、各社が協力して新しい世界を創造する為に、超音波工業会が虹のような架け橋に成られますように祈念いたしております。

最後になりましたが、超音波工業会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



超音波工業会の 設立50周年にあたり、 心よりお祝いを申し上げます。

経済産業省商務情報政策局 情報通信機器課 課長 三浦 章豪

貴工業会は、昭和41年の設立以来、我が国唯一の強力超音波応用機器の工業会として、「超音波ニュース」の定期発行による会員企業への情報提供、「洗浄総合展」への機器出展などを通じた超音波洗浄機器の他業種への普及・広報、会員企業の販路拡大のためのマッチングイベントの開催等、業界の健全な発展に向けて多様な活動を継続的に進めてこられました。最近では、利用者から「分かりにくい」と苦情のあった「ボルト締めランジュバン型超音波振動子の電力計法による負荷試験方法」に関するJIS規格の改正のために委員会を組成・運営し、昨年、改定作業を完了されるなど、標準化活動にも力を入れてられているものと承知しております。これまでの関係者の皆様の熱意とご努力に対しまして、敬意を表する次第です。

1912年、氷山に衝突して沈没したタイタニック号の事故を教訓に、人間の目に頼らない方法で氷山を確認するための研究が本格化し、その過程で、超音波を利用したソナー（探信儀）が発明されたといわれております。「人間の目」を補う超音波技術は、魚群探知機、診断装置等にも応用され、近年では、老朽化したインフラの非破壊検査、自動車の障害物検出など、最先端の課題解決に有用な技術として注目されております。また、超音波技術について、こうした情報・通信的応用のみならず、エネルギー的応用が重要であることは言うまでもありません。半導体等の洗浄、ガラスや金属の切削加工・溶接など、高い技術力を背景に開発した諸製品で我が国製造業の国際競争力を支えていただいております。

貴工業会におかれましては、今後とも、多岐にわたる超音波技術の可能性と変化する社会のニーズとを的確に結びつけ、業界の進むべき大きな方向性を示していただき、これを会員企業のビジネスの拡大につなげ頂くことを期待しております。経済産業省といたしましても、貴業界との緊密な連携を図りつつ、貴工業会の取組を支援させていただくべく努力してまいります。

最後になりましたが、貴工業会の今後ますますのご発展と皆様方のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして、私のお祝いの挨拶とさせていただきます。

超音波工業会 創立50周年にあたり

日本産業洗浄協議会 会長 目黒 弘
日本ソルベイ(株) 代表取締役 社長



この度は、創立50周年誠におめでとうございます。50年間継続して工業会を運営されてこられたことは、日本の工業への貢献をしてきた証でもあります。及川会長、松岸副会長はじめ役員の方々、最新の技術をお持ちの会員会社様、50周年をお迎えになって、非常に感無量ではないかというふうに感じております。

超音波と言っても一般の方にはピンとこないところもあります。しかし、日常生活の中で使われている製品には、欠かせない技術の一つとなっています。日本のモノづくりの中でも、大きな地位を築いていることは、会員会社様の用途展開を見ると一目瞭然です。非常に多岐に渡っており、頭が下がる思いです。特に洗浄技術に関しては、幣協議会の会員会社にとりまして切っても切り離せない重要な技術になっております。

弊協議会も昨年20周年を迎え、第二次未来委員会の答申に基づき今後、更に発展、日本のモノづくりに貢献して行きたいと思っております。超音波工業会様におかれましては、将来の日本の基幹技術の一翼を担って頂きたく、更なる今後のご発展をお祈り申し上げます。はなはだ末筆ながら、幣協議会も御貴工業会と同じように50周年を迎えられる様、より一層、日本のモノづくりに貢献していきたい所存でございます。

この度は本当におめでとうございます。今後も、より一層、深いお付き合いができます様、祈念をして弊協議会を代表して、祝辞とさせていただきます。宜しく願い申し上げます。